



陸上男子リレー 全国大会で快進撃!

県総体で大会新をマークし優勝した林昇矢君・竹村誉仁君・松村泰知君・宮崎雅貴君の男子400mリレーチームが、22・23日、ヤンマースタジアム長居で行われた全国中学校総合体育大会に出場しました。各都道府県の優勝チームのみが出場できる全国大会。そんな強豪たちとサッカーワールドカップが行われた最高のスタジアムで、向陽中チームは持てる力をすべて出し切りました。まずは22日の予選。各組8



チーム中3位に入れば準決勝に進出できます。結果、速星(富山)青雲(長崎)に次いで3位。タイムは43"73。県総体で出した記録を0.41も更新し、翌日行われる準決勝に夢をつなぎました。そして、23日、18:30スタートということで、授業を終えた陸上部員も多く応援に駆けつけました。ところが、18時頃スコールのような豪雨で1時間の中断。1

全日本中学校陸上競技選手



9:30、ナイター照明と雨に光るトラックで、いよいよ準決勝がスタートしました。バトンは最高の形で繋がりましたが結果は5位。決勝への夢は絶たれました。しかし、タイムは予選の県記録を更新する43"64。この4人でのベスト記録で全中を終えることができました。各チームへの声援、言葉にならない緊張感、スタート前の静寂、ピストルの音、地響きのような歓声とどよめき、歓喜と涙・・・この最高の舞台でしか味わえない経験でした。

9:30、ナイター照明と雨に光るトラックで、いよいよ準決勝がスタートしました。バトンは最高の形で繋がりましたが結果は5位。決勝への夢は絶たれました。しかし、タイムは予選の県記録を更新する43"64。この4人でのベスト記録で全中を終えることができました。各チームへの声援、言葉にならない緊張感、スタート前の静寂、ピストルの音、地響きのような歓声とどよめき、歓喜と涙・・・この最高の舞台でしか味わえない経験でした。

高校俳句甲子園で全国3位

向陽高校俳句チームは県予選で優勝し、松山市で開催される俳句甲子園全国大会に三回目の出場を果たしました。開成や灘、洛南など名だたる進学校が出場している大会で、審査員にはプレバトでおなじみの夏井先生も座っています。今年は加須屋美菜さん(環境科2年)を中心とした女子7人のチーム。個性あふれる俳句と中学校で鍛えたディベート力に磨きをかけ大会に臨みました。大街道商店街で行われた予選リーグの3試合はすべて2-1の接戦で全勝。トーナメントでは地元松山東を3-2の大逆転勝利で翌日の決勝リーグに進出しました。初の快挙です!二日目の舞台は大ホール。満員でホールに入れな人は外のパブリックビューイングで観戦するほどの人気です。高田(三重)との初戦はハイレベルな接戦となり、またも3-2で勝利!そして名古屋高校との準決勝は、大観衆の前でスポットライトを浴び、テレビカメラが回るステージで行われました。結果1-4で敗れましたが堂々の3位。チームは試合を重ねる毎に成長し、一生に一度の大舞台を満喫しました。個人の部では深田鈴加さんの「夏の月めんまの意味を考える」の句が入選(1200句中ベスト34)。さて、皆さん、この句の良さが分かりますか?

